

「コロナ禍の中での、七段合格者として一言述べよ。」との、お話がありました。とりとめなく、ですが 記させてもらいます。

稽古が、七月に再開されてから徐々に体を慣らし、ほぼ週に6回の稽古量を確保しました。どうやら体も持っています。直心館金田道場、共栄館山田道場、母校の高校剣道部、などなど先生方にお世話になっています。

八月、師から「そろそろ、成果を出さなければいけない」「前に出ていないから、攻めが足りない」と御指導。最重要の課題と、懸命に構えの工夫改善を行い、前に出られるようになってきました。竹刀の押し出しも、前に出るようになりました。

県剣連の6人掛けのビデオを繰り返し拝見し、師にお伺いを立てました。「審査で胴を打ってもいいですか」「いいよ」「初太刀で打っても、いいでしょうか」「いいよ！ 攻めを利かせて、相手を動かして、前に出て打つなら、どこを撃っても良い」との御指導でした。そして「余計なことをしなければ受かるよ」と。

戦略は決まりました。そして10月15日、姫路での4回目の七段審査。その方針通りに立ち合うことができました。

立ち合いの後、面を外した時、よし、やるべきことは全部やった、という手応えが充分にありました。そして、気が付いた時には、形の審査に入っていました。

だいぶ以前の審査講習会で、いただいた講評を思い出しました。

「こちら辺の高齢グループになると、皆さんは みんな残りかす」

「合格する者はさっさと仕上がっている」との身のすくむような、お言葉(笑)

そのあと、ちゃんとフォローの御言葉が。「しかし！少しでも光れば、合格するんだよ」これは心強かったです。

そうか！少しでも光ればいいんだ、と。「少しでも光る所」は出せたようです。

合格の帰路、受審者の長蛇の列にもかかわらず、タクシーは来る気配もなく、歩いて姫路駅に向かいました。その40分間で、師や先生方、御同輩、家族に報告と御礼の電話をかけまくりました。よろこんでもらえて、合格の実感が沸きあがってきました。

このへなちょこの先輩を、やたら立ててくれる後輩七段にも掛けました。つながった瞬間、

「おめでとうございます！」と向こうから第一声が飛んで来ました。驚きました。これは出端に1本！(笑)

その後、姫路審査のビデオを繰り返し何十回も見ていますが、有効打突も数本ありました。

しかし、禁じられた「余計な事」もやっていて、汗顔のいたりです。○をもらえる面打ちもあり、お相手の面に乗って押し切っていました。しかし、欲を言えばもっと手の内で剣先を走らせ、振り巾を大きく、お相手の面布団を捉えたかったです。

見てもらった先生に話すと、「それができれば、八段ですよ」と言われてしまいました。これも一本！(笑) 全てのやりとりは、剣道なのかな?!とも思いました。

昇段挑戦中の方から電話がかかってきまして「斎藤先生、おめでとう」「いいなあ、もう受けなくていいんだね」と言われました。「ああ、そうなんだよねえ(笑)」まさに実感であって、ホッとしたと言うのが正直なところです。

さて、中国発の、全世界を覆う、この災いの中ですが、活動をやめるわけにはいきませ

ん。

過度の自粛は、命を削ぐことに直結する、と考えます。萎縮だけは避けたいと思っています。

1億2300万人の日本国総人口の内、12月現在、すでに回復・復帰した人も含め、感染者累計は22万人ほどで、総人口の0.17%。死亡者は3200人ほど、これは総人口のわずか0.0026%。なぜ、その都度、この比率数字を出さないのか。無駄な不安を煽るしか能のないマスコミには、怒りを禁じえません。

医療従事者の端くれですので、感染対策には気を使っています。ですが、大分先ではあるでしょうが、自分もいつかは感染するだろう、とは思っています。しかしながら、全く不安は感じていません。全剣連の通達通り、感染予防を怠りなくしていれば、思い切って打ち合い、ぶつかり合える剣道は最高です。

同輩の先生曰く「呼ばれたら、どこにでも稽古に行く」、見習います。これから高齢剣にも参加します。仕事の目途が付けば、いずれ市剣連の夜の稽古にも行けそうです。

指導を求められることも多くなりました。高校の現役部員にもそれなりの改善点指導をしていますが、生徒たちの吸収力はすごく、あっという間に身に着けてしまい、その伸びに、こちらはあおられてしまいます。

師のお言葉「最高の1年になったなあ」おかげさまで、個人的に最高の1年でした。ありがたさを噛みしめ、今日も稽古に出かけます。お手やわらかに、お願いいたします。

